

## 子どもが胸を張れる檜葉町の環境への3つの課題

檜葉町では、大震災、福島第一原発事故から7年が経過した今年も、安心、安全な生活環境を回復するため、取り組みをすすめております。檜葉町除染検証委員会では、子どもが胸を張れる檜葉町の環境回復のための、平成30年度の3つの課題への取り組みを提案します。

### (1) 放射線量の低下と、住民の要望を重視した環境回復へ

事故後の除染への取り組みと、放射線量の安定同位元素への変化により、環境中の空間放射線量が、檜葉町の多くの地域で低下してきました。法律で定める最も厳しい基準（追加放射線量が1年で1ミリシーベルト）以下の地域がひろがってきました。とくに、子どもが長い時間いる場所では、徹底した除染がすすめられ、安全確保がすすめられてきました。

残る放射性物質の除染においては、一般的な作業より、住民の要望に答え、優先度の高い課題から、徹底しておこなわれることが大切になっています。

### (2) 放射性廃棄物の処理をすすめる

平成30年度は、檜葉町の放射性廃棄物を、移送、処理を本格的にすすめていく年になります。これまで多数設置された仮置き場から中間保管場への移送とそれに伴う、仮置き場の環境回復の実証事業も開始します。

放射性廃棄物の処理につきましては、低線量の廃棄物の再利用にかかわる実証事業（引用資料1）、高線量の廃棄物の資材化によるリサイクルの実証事業（引用資料2）が行われ、環境回復への試みが進められています。檜葉町における放射性廃棄物の処理に本格的な取り組みが始まる年になります。

資料1) <http://josen.env.go.jp/chukanchozou/facility/effort/recycling/>

資料2) [http://shiteihaiki.env.go.jp/initiatives\\_fukushima/waste\\_disposal/iitate/materials\\_warabidaira.html](http://shiteihaiki.env.go.jp/initiatives_fukushima/waste_disposal/iitate/materials_warabidaira.html)

### (3) 里山、森林の除染に取り組む

残る最大の課題は、森林の除染です。今年から、生活圈周辺の里山および森林の除染について、実証試験や、技術の検討が始まります。福島の放射線汚染地区の7割をしめる森林の除染のロードマップを明らかにし、子どもが胸を張れる環境の回復へむけて進む年にしたいと考えております。

2018年3月19日

檜葉町 除染検証委員会 委員長

東京大学先端科学技術研究センター 教授 児玉 龍彦